

# 全学教養科目特別講義（海外研修）のふり返し報告書

記入 | 2016年 9月

所属&学年 | 農学部2年生

留学先（国名）	ノースカロライナ州立大学（アメリカ合衆国）
科目名	アメリカの大学生活とビジネス・海外研修
海外での学習期間	2016年8月28日～9月17日

## 1. 履修のきっかけや動機

以前から留学に興味をもっており、一度も行ったことないアメリカである点、大学生活をテーマにしている親しみやすい点からこのプログラムに参加しようと思った。

## 2. 名古屋と海外での学習で学んだこと

渡航前の事前授業ではアメリカやノースカロライナに関する話を聞いた。文化や考え方の違いをふまえた上で現地に行くことで、よりその違いを実感できたと思う。最も実感できたのは愛国心というよりは愛州心を持っていること。日本人にはない感覚で興味深かった。

## 3. 海外研修中での生活で学んだこと

現地で働く日本人の方が、「語学力に関係なく、伝えようとして伝えられない人はいない」とおっしゃっていたが、まさにそのことを実感できたことが、この研修での成果だと思う。もちろん今後の英語の勉強の動機付けになったことは間違いないが、英語のよし悪しではなくて、相手に伝えようとする姿勢、自信がないからと言って話すことをためらわない姿勢が大切だと感じた。

## 4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

貴重品は常に携帯しておくこと、ひとりで出歩かないことを心がけた。大学内では油断しがちであったが貴重品管理など気を緩めないように気を付けた。

## 5. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ビザ、海外旅行保険	15万円		振込
授業料	31万円		海外送金/web支払（米ドル）
滞在費（寮費など）	円	授業料に含まれる	
食費	3万円		
交通費	1000円		
その他（小遣い、通信費など）	8万円	Wifi レンタル代含む	
計			約65万円

※現地通貨はいくら持参しましたか？ \$ 472

## 自由記述欄

↓↓↓

現地では夏なので外は暑いですが、どこも冷房が効いていて寒いので、長袖の服や上着を持って行ったほうが良かった。寮の部屋は集中管理されているようで自由に温度設定ができないので、ブランケットを準備するとすごしやすい。

大学内はバスで自由に移動できるが、学外に買い物に行くときなどは現地学生に車を出してもらった必要があった。午前は ESL、午後は日替わりのプログラムがあり、現地の様々なことを学ぶことができた。放課後は自由時間がたくさんあるので、現地の子とご飯を食べに行ったり、買い物に連れて行ってもらったりと、変化に富んだ充実した毎日を送ることができた。最も印象に残っているのは、アメフトの試合を見に行ったこと。試合開始前の、マーチングとチアリーディングのショーは大学対抗試合とは思えない迫力で、飛行機や花火も伴って大興奮だった。学生だけでなく家族連れや老夫婦も応援に来ており、日本でいう日本代表を応援するような盛り上がり具合であった。愛州心を感じることができ、興味深かった。

週末の D.C.旅行でも自由時間がたくさんあり、数々の観光スポットを巡ることができた。高層ビルが隣接する騒々しい都会を想像していたが、趣のある建物が点在していて交通量も多すぎず観光客が集まりゆったりとした雰囲気だったので驚いた。National gallery of art では、一日かけても見て回り切れないほど多数の絵画が展示され、次の予定も立てていたためにあえなく切り上げなければならなかった。美しい作品ばかりだったので、必ずいつか行き直したい。無料で入場できる博物館・美術館が多く、お金を使わなくとも充実した時間を過ごすことができた。

放課後に開かれる Japanese culture club には日本に興味をもっている学生がたくさん集まっており、現地の友達をつくる貴重な場であった。日本のアニメや漫画が知れ渡っていて、日本人として嬉しかった。日本語の授業をとっていない学生でも、アニメや歌で聞きながら独学で日本語を勉強している学生もいて、その姿勢に刺激をうけた。

# 全学教養科目特別講義（海外研修）のふり返し報告書

記入 | 2016年 9月

所属 & 学年 | 情報文化学部 2年生

留学先（国名）	ノースカロライナ州立大学（アメリカ合衆国）
科目名	アメリカの大学生活とビジネス・海外研修
海外での学習期間	2016年8月28日～9月17日

## 1. 履修のきっかけや動機

大学(または大学院)在籍中に交換留学に行きたいと思っており、今回の研修ではアメリカの大学での生活を体験できる、またアカデミックな英語を学べるということで応募した。

## 2. 名古屋と海外での学習で学んだこと

事前研修では、アメリカの基本的な情報(歴史やビジネス)について学んだ。また、グループワークではテーマ決定から日本での事前調査を行った。特にグループワークでは、調査活動に慣れておらず大変ではあったが、きちんとアメリカに行く前の準備が出来たと思う。

## 3. 海外研修中での生活で学んだこと

海外研修中は、主に ESL での英語の授業、ビジネス・カルチャーセミナーなどの英語以外に関する授業の二種類を受講した。正直な話、前者の英語の授業ではあまり英語力の向上は無かったように思われる。今まで英語を話す機会が全くなかった人には良いと思われるが、自分は元々IELTSのスピーキングセクションの練習を行っていたので、物足りなく感じた。

その他の活動としてグループワークが挙げられる。これも班のテーマによってリサーチにかかる時間などはまちまちである。私たちの班ではアンケート調査、インタビュー、フィールドワークなど様々な活動を行った上、結論をまとめるのにもかなり時間がかかった。特に2週目(中間発表前)は、毎日調査とグループ内ディスカッションで忙しく、体調管理が大変であった。しかし、自分達主体で調べたいことを調査できたのは、大変貴重な経験だったと思う。

さらに、これはプログラムに組み込まれている内容ではないのだが、アメリカ人の友人と一緒に遊ぶこともあった。日本クラブ、アニメクラブ、その他のクラブ(スポーツ、楽器など)のクラブにお邪魔してもらい、仲良くなった現地の生徒と連絡を取り合ったり、遊んだりした。このようなクラブ活動への参加は必須ではないが、色々な人と知り合えるチャンスであるし、気になったクラブ活動には積極的に参加するようにした。(ちなみに、アメリカではLINEアプリはあまりメジャーではなく、基本 Facebook でメッセージのやり取りをする学生が多かった。来年度以降にこの研修に参加する人は、事前に Facebook アカウントを取得し、操作に慣れておくといいかもしいかない。) )

## 4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

大学内は案外安全であった。海外では、リュックサックを使うとスリにあいやすいので避けるべき、という話を以前から聞いていたのでリュックサックの類は持って行かなかったが、大学内ではリュックサックで大丈夫であるし、危機管理的にも名古屋内で過ごすのと同程度で良いと思う。ただ、観光で行ったワシントン DC では、駅のホームで物乞いがあったりしたので、多少危険ではあると思う。どこに行くにしろ、一人では出歩かないほうが安全ではある。

## 5. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ビザ、海外旅行保険	10万円前後?		振込
授業料	30万円前後		web支払(米ドル)
滞在費(寮費など)		授業料に含まれる	
食費	5万円	食費, 交通費, 小遣い含む	カード
交通費		上記に含まれる	
その他(小遣い, 通信費など)	3万円	ポケットWi-Fiレンタル料	日本円
計		約48万円程度	

※現地通貨はいくら持参しましたか? 5万円分程

(ただしワシントンDCのホテルでのチップとして使った数枚の1ドル札以外は全く使わず、他はすべてクレジットカード払いだったので大量に余った。)

自由記述欄

↓↓↓

### 寮について

私たちが滞在したウォルフリッジという寮は、4人部屋であったが、4人の共有スペース(キッチン, リビング)の他に、各々の部屋(勉強机, ベッド)があった。鍋や食器などのキッチン用品は大学から借りることが出来るが、掃除用具は借りることは出来ない。もしも掃除をしたいならばグローサリーストアで買うことをお勧めする。



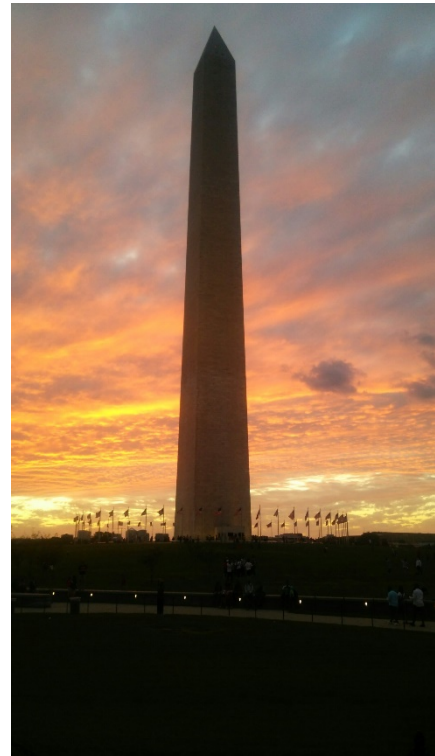
加えて、この寮のキッチンで料理をして煙が出ると、簡単に火災報知器になってしまう。何度も鳴らすと損害賠償を請求される(らしい)ので、気を付けていただきたい。

## 気候について

名古屋と比べると驚くほどカラッとしている。日差しは強いが、湿気が無いせいだろうか、日本と比べると圧倒的に過ごしやすかった。基本的に昼間は半そで T シャツ+長袖の上着で過ごすことが出来る。注意が必要なのは夜で、日差しが出ていない上、寮の冷房が強いのもあり、非常に寒い。グローサリーストアで毛布を買ってもよいだろうし、私の場合は冬用の寝間着を着ていた。また、乾燥により喉を傷めやすいので、マスクを持っていくとよい。

## ワシントン DC トリップについて

ワシントン DC への観光では、アメリカの歴史や政治に触れることが出来た。単純に風景が綺麗な所や、堅苦しくない観光地(航空宇宙博物館, 国立自然史博物館)もあるので、歴史や政治に興味が無くとも楽しめるのではないだろうか。余談ではあるが、今回の旅行で行く暇は無かったものの、自分的にはアーリントン国立墓地がものすごくおススメなので、時間があればぜひ行ってみたい。



## 食事について

アメリカと言えば脂っこいものや甘いものが多いのかと思うかもしれないが、大学内の食堂では、ハンバーガーやピザは勿論、サラダやヨーグルトを買うこともできる。ちなみに寮近くにあった食堂のサラダ専門店では、日替わりスープがあり、クラムチャウダーが美味しかったらしい。私自身は飲むことは出来なかったのだが。



その他、大学の至る所に食べ物を買うことのできるワゴン車もある。これも日替わりで、ハンバーガー以外にも、タコスや餃子(左写真)などの様々な国の料理を楽しめる。(ちなみにこのワゴン車でもクレジットカードを使える。)



食事に関して一番心に残っているのは、アメリカで迎える最初の朝、現地のスタッフの方に頂いた朝食のリンゴがワックスを塗ったようにテカテカで、相当食べるのに勇気が必要だったことだろうか…。



私が 3 週間で食べたものをザッと写真で紹介する。アメリカの食べ物が口に合うか不安な人は参考(になるかどうかは分からないが)にしてほしい。



ちなみに、私の周りの友人にも、最初はアメリカ食に慣れないと言っていたものの、最終的には普通に食事をしていた子もいたので、個人的には、さほど食に対して心配する必要はないのではないかと考えている。

## 最後に

この研修中には、名古屋大学・岐阜大学・三重大学とノースカロライナ州立大学の多くの生徒・先生方にお世話になった。私が沢山の良き友人たちに囲まれ、3週間充実した日々を過ごすことが出来たのは、周りの人々によるサポートがあったからに他ならない。この研修に携わった全ての人に、この場を借りて感謝の気持ちを伝えさせていただく。



# 全学教養科目特別講義（海外研修）のふり返し報告書

記入 | 2016年 9月

所属&学年 | 経済学部 2年生

留学先（国名）	ノースカロライナ州立大学（アメリカ合衆国）
科目名	アメリカの大学生活とビジネス・海外研修
海外での学習期間	2016年8月28日～9月17日

## 1. 履修のきっかけや動機

中学、高校のときから海外に憧れを持っていたのですが、実際に海外に行ったことが一度も無かったので今回このプログラムに応募しました。

## 2. 名古屋と海外での学習で学んだこと

現地では基本的に毎日 ESL の授業を受けました。ESL の授業は他の学生や先生との交流が重視されていて、英語で発言する機会が多くあり非常に有意義なものでした。当然といえば当然なのですが、現地での授業はほとんど全てが英語で行われます。初回の授業では話を聞いているだけで少し神経を使いましたが、徐々に言語の違いを気にせず授業の内容を楽しめるようになり、3週間目にもなると英語で授業を受けることが当たり前のような感覚すら得られました。たった3週間の滞在では語学力の向上と言えるまでの変化は無いかもしれませんが、間違いなく英語で話し、聞くことに慣れることができました。

## 3. 海外研修中での生活で学んだこと

アメリカでの生活は食事を除いて全て日本より快適でした。大学内でもワシントン DC でもそこら中にゴミ箱があるし、気候も最高です。現地の人々と交流する中で、日本では学ぶのが難しい多くのことを学ぶことができました。例えば、どういった英語表現がアメリカの日常生活で一般的なのかは、日本で英語を学習しているときに知り得なかったことです。アメリカ人の、言葉のストレートな受け取り方も印象的でした。「遊びに行こう！」や「車に乗せてよ！」と適当に言ったつもりでも、「いつにする？」と具体的な計画を立てるための返事が返ってきます。日本で「ごはんに行こう」と言えば、半分社交辞令のようなものです。それなのでその時は少し感動してしまいました。特におかしなことではないのかもしれませんが、個人的にとっても興味深かったです。アメリカ人が言葉の意味をそのまま受け取るということの意味を、実際に体験して学ぶことができました。

## 4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

事前研修で危機管理についての注意を受けた段階ではアメリカはなんて危険な国なのだろうと思いましたが、少なくとも大学内で危険を感じることはありませんでした。ただワシントン DC ではいかにも治安が悪そうな通りを見かけました。いずれにせよアメリカが危険だという認識を最初に持って注意したからこそ、何の危険にも出くわさずに済んだのではないかと思います。ただ大学内はのどかすぎて途中から何の危機管理意識もありませんでした。今思い返すと何か盗まれていても不思議ではなかったと感じます。



5. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ビザ、海外旅行保険	15万円		振込
授業料	30万円		海外送金/web支払（米ドル）
滞在費（寮費など）	-	授業料に含まれる	
食費	3万円		
その他（小遣い、通信費など）	3万円		
計	約 55 万円		

※現地通貨はいくら持参しましたか？ 500\$

自由記述欄

↓↓↓

このプログラムの一応メインであるグループワークの中で行ったアンケート調査は本当に貴重な経験になったと思います。単純に多くの現地学生に話しかける機会がつかれるし、そもそもアンケートなんて日本でもしたことがなかったので非常に刺激的でした。アンケートをしようと思ったら逆に宗教の勧誘をされてしまうという小さなトラブルもありましたが、今思うとなかなかできない体験で幸運だったと感じます。そしてこの留学を通して最も感動したことは、日本に帰ってから NCSU で出会った学生と再会できたことです。この留学自体はたった3週間ですが、アメリカの友人との関係や現地で学べた多くのことなど後に残るものが幾つもあったので、55万円の何倍も価値がある留学でした。

# 全学教養科目特別講義（海外研修）のふり返し報告書

記入 | 2016年 9月

所属 & 学年 | 情報文化学部 2年生

留学先（国名）	ノースカロライナ州立大学（アメリカ合衆国）
科目名	アメリカの大学生活とビジネス・海外研修
海外での学習期間	2016年8月28日～9月17日

## 1. 履修のきっかけや動機

大学生協と大学の店舗の経営は経営が難しいことが多いこと、アメリカでは大学のロゴが入っている大学グッズを多くの学生が購入しているが、日本ではそうではないことなど、大学の生協と大学の店舗について興味があり、日本とアメリカでの比較調査を行いたかったため。また、海外に行くうえで、ただの旅行ではなく、実りのある留学にしたかったため。

## 2. 名古屋と海外での学習で学んだこと

時間に対するとらえ方の違い等を学んだ。short term と言っても日米間で時間の長さは大きく違う。これらは知っているだけで余計な衝突を避けられるもので、文化の違いは、異文化交流において知っておくべきものであると改めて思った。

## 3. 海外研修中での生活で学んだこと

積極性がとても大切であることを学んだ。慣れない海外で、文化も言葉も違い、殻に閉じこもりたくなる時も正直あったが、自分から話しかけること、行動していくことを心がけ、時間とお金を無駄にしないことが有意義な時間にするための必須事項であると思う。

## 4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

税関や飛行中などの会話表現等予めわかりきっていることは、予習しておいた。また、昨年度同じプログラムに参加した友達に何が必要か質問して、生の声を聴くことを心がけた。初の海外であったことなどから危機管理について不安であったが、キャンパス内は比較的安全という印象だった。単独でなるべく行動しないこと・身の回りのものに気を配ること等、注意することに越したことはないので、注意すべきであると思う。

## 5. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃 & ビザ、海外旅行保険	200000 円		振込
授業料	300000 円		海外送金/web 支払（米ドル）
滞在費（寮費など）	不明	授業料に含まれる	
食費	20000 円		現金 5000 円カード 15000 円
交通費	3000 円		
その他（小遣い、通信費など）	40000 円		現金 15000 円カード 25000 円
計		約 57 万円	

※現地通貨はいくら持参しましたか？ \$ 600

## 自由記述欄

↓↓↓

ノースカロライナ州立大学とワシントン D.C.について。

ノースカロライナ州立大学はとても広大な敷地を有していて、緑色の芝生、一面の青い空、24時間空いている独創的な区間を有した図書館と、名古屋大学と全く違ってすべてが新鮮でした。もちろん目的をもって留学に行ってもらいたいですが、こういう点も体感し、楽しんでもらいたいです！ワシントン D.C.にはたくさんの博物館があり、そのほとんどが無料で入れます。一日では到底回れないほどたくさんあるので、自分好みのスケジュールを組めるといいと思います！

# 全学教養科目特別講義（海外研修）のふり返し報告書

記入 | 2016年 9月

所属&学年 | 経済学部 2年生

留学先（国名）	ノースカロライナ州立大学（アメリカ合衆国）
科目名	アメリカの大学生活とビジネス・海外研修
海外での学習期間	2016年8月28日～9月17日

## 1. 履修のきっかけや動機

私は海外経験がほとんどないため、航空チケットなど渡航の準備をサポートしてくれる NU-OTI のプログラムが適していると考えたから。海外に行くことで、外国人の立場として、みられる経験をしたい。今まで日本で生きてきて、日本の中だけでの価値観やルールに縛られていると思ったので、この留学が広い視野を持ち、日本を客観的に見るよい機会になると考えたから。アメリカを選んだ理由としては、日本とは違い、移民の国であるため、個を重んじ、様々なバックグラウンドをもつ人が多いと考えたからだ。

## 2. 名古屋と海外での学習で学んだこと

質問にきちんと答える、自分の意見を伝えることが大切だということ学んだ。プレゼンの際にジェスチャーを付けるなど自分を表現することの大切さを感じた。質問力や積極的に発言をする勇気の必要性を感じた。異なる国では、同じ表現でも感じ方が違うことがあるということに気づけたのはよかった。

この研修では、ビジネスを学ぶ機会も多くあり、第一線で活躍している方からお話を伺うことができた。日本企業の技術力や綿密さを改めて実感し、また日本のビジネスとアメリカのビジネスの違いについて学ぶことができた。

また、現地での調査活動ではフィールドワークの仕方やデータの示し方など有用なことを学んだ。

## 3. 海外研修中での生活で学んだこと

この研修で一番感じたことは、私にはまだまだ知らないことが多いということだ。日本は単一の民族なので日本内の視点から物事を見る傾向がある。しかし、アメリカには多様な人種・文化を持つ人がいるため、例えば LGBT の人に対する意識など日本よりも進んでいることが多い。今回、アメリカで日本とは異なる慣習を経験したことで、日本のことしか知らずに世界を見てはいけなかった。もっといろんな国の文化や社会について知ってみたいという思いが強くなった。

また、自分で動かなければ何も始まらないということも強く感じた。午後が空いている日は、自分から現地の友達と連絡を取って遊びに行く。現地の子はとても親切なので、自分がやりたいことを伝えると気軽に要望に応じてくれる。英語に関しては、伝えようという気持ちがあれば、文法が正しくなかったとしてもある程度伝わるということが分かった。ただ、聞き取る力は強化する必要性を感じた。

## 4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

耳栓やスリッパなど飛行機の中で快適に過ごすためのグッズを持参した。

危機管理については、1人で行動しない、かばんを自分のそばから離さないように気を付けていた。ワシントン D.C のアダムス・モーガンに夜訪れた際は、少し治安の悪さを感じた。しかし、大学内やワシントン D.C は比較的治安が良かった。

アメリカは室内の冷房が強いので、必ず羽織るものを持参するべきである。寮の部屋も冷房が切れないので、ブランケットなどを持参するとよい。



5. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ビザ、海外旅行保険	180,000 円		振込
授業料	330,000 円		海外送金/web 支払（米ドル）
滞在費（寮費など）	-	授業料に含まれる	
食費	30,000 円		
交通費	1,000 円		
その他（小遣い、通信費など）	20,000 円		
計			約 5 6 万円

※現地通貨はいくら持参しましたか？ 50,000 円

自由記述欄

↓↓↓

ワシントン D.C に行く際は、『地球の歩き方』がとても役に立ったので、持参するとよい。名古屋大学から一緒に研修に参加した子たちがいたことで、とても心強かった。寮のそばにあるビーチバレーコートでバレーをしたり、BBQをしたりした。ノースカロライナ州立大学はのどかで広大でとても良い所だなと感じた。現地の先生や学生がとても親切だったので、楽しく留学生活を送ることができた。

# 全学教養科目特別講義（海外研修）のふり返し報告書

記入 | 2016年 9月

所属&学年 | 教育学部 2年生

留学先（国名）	ノースカロライナ州立大学（アメリカ合衆国）
科目名	アメリカの大学生活とビジネス・海外研修
海外での学習期間	2016年8月28日～9月17日

## 1. 履修のきっかけや動機

高校生のころから海外への漠然とした憧れがあり、大学時代に一度は海外留学や絵画旅行をしてみたい、と思っていた。何かを学ぶには自分の目で見て体験することが1番であると思う。英語圏の国であるアメリカへ留学して、英語を話すことへの抵抗感や苦手意識を少しでも軽減したり多くのことを経験したりしてみたいと思ったことが最初の動機である。

## 2. 名古屋と海外での学習で学んだこと

グループワークは、私の中で非常に有意義で充実したものであったように感じる。アメリカではタイトなスケジュールが組まれていて、また現地学生からの誘いやイベントもあったため、調査や発表準備の点では非常に忙しかった。しかし、グループのメンバーとディスカッションをしたり英語でインタビューやアンケートをしたりすることは充実感があり、直接アメリカ人に尋ねることは英語力の向上にもつながった。英語でインタビューし、実際に施設等に赴いて調査することは、日本には出来ないことであるので、調査活動ができてよかった。本や普段見聞きするメディアからの情報とは同じだったり異なっていたりするものを発見できて興味深かった。

また、ESLでは、ネイティブスピーカーの英語授業を受けられて勉強になった。英語科教員になることを考えているので、学ぶことが多かった。日本での多くの授業とは異なり、講義はロールプレイやグループワークが多く、非常に多くの時間をスピーキングとリスニングに費やされていて、実用的だった。日本人にはあまり馴染みのないジェスチャーや、イディオム、プレゼンテーションスキル、発音、トーンなど非常に多くのことを学ぶことができた。

## 3. 海外研修中での生活で学んだこと

まず、異文化に触れるとき、違いを楽しむという心構えの大切さを学んだように思う。初めての海外、初めてのアメリカで真新しいことや、新鮮なことばかりであった。正直はじめの4日ほどは、疲労とカルチャーショックで「日本に帰りたい！」と非常に強く感じた。プログラムの内容の1つであったカルチャークラスを受けてから、「私らしく違いを楽しもう！」と思えるようになってからは、毎日が非常に楽しく充実したものに感じられるようになった。まずは自分(自分の国)と相手(他国)の違いを知り、それを理解して、楽しむことが海外で生活する上では大切なのだと感じた。

加えて、日本のことを知ることを実感した。海外の人と会話するとき何度か地元のことや日本のことを尋ねられたが、その良さや有名なことなどをうまく説明できなかった。日本人であるのに、きちんと伝えられなかったことが恥ずかしかった。語学力というよりも、根本的に私自身が日本や地元の町のことをあまりきちんと知らなかったのだと思う。それに対して大抵のアメリカ人は、自分の州や大学に誇りを持っていて、非常に詳しく説明してくれることが多いという印象だった。私もそれくらいしっかりと自分の国や地元について知り、誇りを持ち、説明できるようになりたいと感じた。

また、英語を話す際に、失敗を恐れずに伝えたいことを積極的に伝える努力をすることの大切さを改めて感じた。どれだけ片言で文法のめっちゃくちゃな発言であっても、話そうとする意思があれば、ほとんどのアメリカ人は一生懸命理解しようとしてくれ、会話を楽しむことができた。あまり流暢じゃないからと話すことを諦めるのではなくて、伝えようとする姿勢や内容が大切だということを実感した。

#### 4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

まず、安全についてである。防犯ブザーやミニ懐中電灯、貴重品用ウエストポーチを持って行った。防犯ブザーや懐中電灯は一度も使わなかったし、ノースカロライナは比較的安全であると感じたが、備えあれば患いなしであると思う。また、日本で生活しているときのように荷物を置き去りにしたり一人で行動したりしないように気を付けた。ワシントン D.C.に行った際に、地下鉄のホームでお金を要求されることがあった。集団で行動していたため、大事には至らなかったが、一人だったらどうなっていたらと思う。また、寮のセキュリティはとてもしっかりとしていたため、寮にいるときは安心して生活することができた。

次に、健康管理についてである。私はもともと体力に自信がある方ではないし、海外へは初渡航であるため、正直不安や心配が多くあった。しかし、結果的には3週間大きく体調を崩すこともなく、元気に研修を終えることができた。アメリカの学生に様々なイベントや食事などに誘われることもあったが、自分の体調と相談してしっかり睡眠をとり、無理をせずに生活したことが健康に過ごせた一因であると思う。また、寮は空調が集中コントロールなので、それに慣れるまで(もしかしたら9月に入り設定温度が上がったのかも)非常に寒かった。日本と違ってどの建物も空調が非常によく効いているため上着は必須であると感じた。

また、食事が合うか不安だったので、日本食(レトルトのご飯と味噌汁、お茶)を大量に持って行った。それほど大量には必要ないが、心と体のリセットのために、持参してよかったなと思った。

#### 5. 研修費用 (さしつかえなければおおよその金額を教えてください)

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ビザ、海外旅行保険	18万円		振込
授業料	32万円		海外送金/web支払(米ドル)
滞在費(寮費など)	-	授業料に含まれる	
計	約54万円(うち奨学金約18万円/予定)		

※現地通貨はいくら持参しましたか？ 4万円分

#### 自由記述欄

↓↓↓

非常に漠然としているが、アメリカに短期研修に行き、自身の今までの世界の狭さを痛感し、視野が広がった。当たり前のことであるが、まだ私の知らないことやものが多くあるということ、身を以て体感することができた。今までは何を考えたり行動したりする際には、日本に視線が行き、海外にまで目がいくことはあまりなかった。ノースカロライナで3週間生活し、たくさんの外国人の友達を作ることができ、尊敬できる先生方に出会い、海外を身近に感じることができるようになった。

また、「やってみたい」と思うことを、周囲に発信し伝えることの大切さも感じた。こんなことをしてみたい、という思いを現地の先生方や友人に伝えることで、たくさんの手助けやアドバイスをいただくことができた。思っているだけでなく、周囲に発言していくことの重要性を実感した。そしてそのような環境や周囲の人々に恵まれていることに感謝の気持ちでいっぱいである。

最後に、プログラムを計画・実施して下さった先生方、NCSUの先生方、一緒に研修に参加した学生、親切にしてくれたNCSUの学生、グループワークやプログラムのアクティビティでお世話になった方や施設、そして日本で見送ってくれた両親や友人など、支えて下さった様々な方に対して、今回のような貴重な経験をさせていただいたこと、非常に感謝しています。ありがとうございました。

# 全学教養科目特別講義（海外研修）の振り返り報告書

記入 | 2016年 9月

所属 & 学年 | 医学部 1年

留学先（国名）	ノースカロライナ州立大学（アメリカ合衆国）
科目名	アメリカの大学生活とビジネス・海外研修
海外での学習期間	2016年8月28日～9月17日

## 1. 履修のきっかけや動機

将来外国で勉強をしたいと考えており、その予行演習として丁度良いと思った。また、受験で身につけた英語力を試してみたいと思った。

## 2. 名古屋と海外での学習で学んだこと

案外アメリカ人は日本に興味がないということ。アメリカで人気の漫画について調査をしたが、そもそも漫画が日本のものだと知らない人も多かった。

## 3. 海外研修中での生活で学んだこと

拙い英語でも、意外とアメリカの学生と打ち解けることができた。会話の技術も大切だが、話そうとする意識がもっと大事だと思った。

## 4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

常に自分のリュックを目の届くところに置いておくようにした。カードと現金は分けて、両方が取られることがないようにした。

## 5. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃 & ビザ、海外旅行保険	15万円		振込
授業料・滞在費	35万円		海外送金/Web支払（米ドル）
食費	3万円		現金1万円、カード2万円
交通費	5,000円		

※現地通貨はいくら持参しましたか？ \$700



# 全学教養科目特別講義（海外研修）の振り返り報告書

記入 | 2016年 10月

所属 & 学年 | 農学部 1年生

留学先（国名）	ノースカロライナ州立大学（アメリカ合衆国）
科目名	アメリカの大学生活とビジネス・海外研修
海外での学習期間	2016年8月28日～9月17日

## 1. 履修のきっかけや動機

大学の中に留学をしてみたいという思いは高校の時からありました。両親が海外に長期間滞在した経験があり、昔からよく海外での生活の話聞いていたので、私も自然に違う国の文化や学生生活に興味を持ったのだと思います。同じく留学に興味のある友人から NU-OTI 説明会に行こうと誘われたのが、この研修を知ったきっかけです。

## 2. 名古屋と海外での学習で学んだこと

名古屋での学習は大学の授業やホームページに限られましたが、驚くような事実がいくつかありました。そしてそれ以上に、アメリカの常識は日本と違って驚かされることがたくさんありました。その違いはおそらく国の歴史や人々の性格などたくさんの文化的要因によるもので、どちらが正しいかということはないですが、それぞれの文化の違いを考慮した上で他文化の良い点を取り入れていければいいと思います。

## 3. 海外研修中での生活で学んだこと

アメリカ人に対する固定観念と実際のアメリカ人はずいぶん違って、日本人と近いところもたくさんあると感じました。また、初めての海外で、親から長期間はなれて暮らすのも初めてだったので、生活面に関してわからないことしがなく、現地の人に話しかける機会がたくさんあり、英語の能力だけでなく積極性も増しました。

## 4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

少し席を離れる時でも、常にバッグは持ち歩くように心がけました。ノースカロライナはとても安全な場所だったので特に加えて危機管理をすることはありませんでした。

## 5. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃 & ビザ、海外旅行保険			振込
授業料・滞在費			海外送金/web 支払（米ドル）
食費	毎食 500 円程度		
交通費	1500 円	ノースカロライナで出かけるときは現地の学生の車に乗せていってもらったので、ワシントン D.C.での交通費のみです	
その他（小遣い、通信費など）	約 2 万円		

※現地通貨はいくら持参しましたか？ 約 1000\$

自由記述欄 ↓↓↓

個人的な趣味が入ってしまうかもしれませんが、ワシントン D.C.の国立自然史博物館とノースカロライナの National Science Museum はかなり楽しかったです！ワシントン記念塔と夕焼けのコンビネーションも最高でした！アメフトの試合も見られて良かったです！大学スポーツの規模の大きさに驚きました！浴槽さえあれば、長期で滞在したいくらい充実していて楽しかったです！

# 全学教養科目特別講義（海外研修）のふり返し報告書

記入 | 2016年 9月

所属&学年 | 経済学部 2年生

留学先（国名）	ノースカロライナ州立大学（アメリカ合衆国）
科目名	アメリカの大学生活とビジネス・海外研修
海外での学習期間	2016年8月28日～9月17日

## 1. 履修のきっかけや動機

英語を母国語としている人々と英語を使って会話し、英語を使って生活をしていく経験がしたいと考えたから。自分の英語スキルを少しでも伸ばしたいと考えたから。今回のテーマの米国のビジネスに興味があり、海外で働くこと、働いている人に興味があったから。

## 2. 名古屋と海外での学習で学んだこと

日本とアメリカの労働への考え方や体系について調べたが、海外へ行く前に下調べや計画を入念に立てることの重要性を感じた。日本人とアメリカ人では違いがあるので、相互理解を深めるには、違いを理解することだと学んだ。

## 3. 海外研修中での生活で学んだこと

流暢で上手な英語を話せることに越したことはないが、一番大事なのは伝えようと努力すること、自分から積極的にコミュニケーションを取っていくことであると感じた。わからなければ、わからないとはっきり伝えるなど、明確な意思表示なども大切なことである。

## 4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

貴重品を絶対になくすことがないように、貴重品を入れるためだけの小さい鞆を持って行った。ノースカロライナの治安はよかったが、それでも外出するときは、注意を払い、警戒していた。

## 5. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ビザ、海外旅行保険	15万円		振込
授業料・滞在費	40万円		海外送金/web支払（米ドル）
食費	4万円		現金 1万円、カード 3万円
その他（小遣い、通信費など）	2万円		カード 2万円
計			約61万円

※現地通貨はいくら持参しましたか？ 3万円

# 全学教養科目特別講義（海外研修）のふり返し報告書

記入 | 2016年 9月

所属&学年 | 工学部 2年生

留学先（国名）	ノースカロライナ州立大学（アメリカ合衆国）
科目名	アメリカの大学生活とビジネス・海外研修
海外での学習期間	2016年8月28日～9月17日

## 1. 履修のきっかけや動機

2年生ということもあり海外に行った経験もなかったので一度海外に行くという経験をしてみたかった。また自分は環境土木専攻であり向こうの交通事情と日本の交通事情についての違いを知りたいと思ったから。

## 2. 名古屋と海外での学習で学んだこと

午前中は英語の授業であり今までの発音が全然違うものだということが分かった。また今まではあまりしたことがなかったインタビューを言語も違う人に対して行ったことでジェスチャーであったりいざという時の対処法も学べた。

## 3. 海外研修中での生活で学んだこと

火災報知器を鳴らしてしまったりといろいろなことをしてしまったけれどご飯の違いや生活習慣の違いを学んだ。食生活では常にハンバーガーやピザなど太る要素の多いものが多かった。ベジタリアンの人が多かったりして驚いた。靴を履いたまま家に上がったり、シャワーしかなかったりとアメリカ風だなと感じた。

## 4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

いろいろな薬を持っていったりしたが、得に必要ななかった。一応カバンは前に持っておいたりした。

## 5. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ピザ、海外旅行保険	15万円		振込
授業料・滞在費	30万円		海外送金/web支払（米ドル）
食費	6万円		
交通費	5000円		
その他（小遣い、通信費など）	4万円		

※現地通貨はいくら持参しましたか？ 378ドル

# 全学教養科目特別講義（海外研修）の振り返り報告書

記入 | 2016年 9月

所属&学年 | 理学部 3年生

留学先（国名）	ノースカロライナ州立大学（アメリカ合衆国）
科目名	アメリカの大学生活とビジネス・海外研修
海外での学習期間	2016年8月28日～9月17日

## 1. 履修のきっかけや動機

大学二年生の時に将来設計を簡易的にはあるが行った際に、これから自分にとって必須となる能力に英語が挙げだったので、留学を視野に入れたのがきっかけ。

## 2. 名古屋と海外での学習で学んだこと

海外に行った後に率直に自分で感じた変化は、英語で話すあるいは話しかけるという行為に恥じらいが無くなった点と、海外の大学生に比べて様々な部分で劣っていると思っていたが、実際に現地学生を自分の目でみることで大きな自信がついた点である。また、様々な文化とその理解に勤しむことができたと考える。

## 3. 海外研修中での生活で学んだこと

食費が高いにもかかわらず、値段の割に美味しくないということ。また、日本から持参した少量のインスタント食品ですら感動をあたえてくれるということ。

## 4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

## 5. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

※現地通貨はいくら持参しましたか？ 500\$

## 自由記述欄

↓↓↓

少し意見のようなおすすめにはなってしまうが、一緒に海外渡航した友達ももちろん大切だが、海外にいざ降り立ったら積極的に現地の人々と交流をするべきだと思う。友達が友達を紹介してくれるし、より多くの文化や価値観に触れられるため、得られるものは非常に大きいからである。あとは、自分より多くの知らない経験や知識を持っている人を見つけて交流すること。これさえ意識すれば特に何を考えずとも楽しく価値のある留学になると思う。



# 全学教養科目特別講義（海外研修）のふり返し報告書

記入 | 2016年 9月

所属 & 学年 | 理学部 2年生

留学先（国名）	ノースカロライナ州立大学（アメリカ合衆国）
科目名	アメリカの大学生活とビジネス・海外研修
海外での学習期間	2016年8月28日～9月17日

## 1. 履修のきっかけや動機

英語で話す力を向上させたいと思っていました。また、アメリカと日本の違いを知って、常識や仕事についての様々な考え方を知りたいと思って履修しました。

## 2. 名古屋と海外での学習で学んだこと

アメリカで使われているイディオムは日本に住んでいては意味が分からないものが多かったが、学んでいて面白かった。また、アメリカの仕事の仕方は、家族が優先になることが日本とは違っているが、仕事に対する熱意は一緒なのだと分かった。

## 3. 海外研修中での生活で学んだこと

アメリカ人の友達に家に呼ばれたときに、食べ物がすべて茶色だったのには驚いた。動物は日本に見られる動物と同じものが多かったが、リスやウサギが日常で見られることに驚いた。

## 4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

日本に比べて、物が盗まれやすいと聞いていたので、リュックではなく鞆を持ち歩いていました。また、外では持ち物を持っていかれないように外では寝ないようにしました。

## 5. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

※現地通貨はいくら持参しましたか？ 10万円

# 全学教養科目特別講義（海外研修）のふり返し報告書

記入 | 2016年 9月  
所属 & 学年 | 工学部 3年生

留学先（国名）	ノースカロライナ州立大学（アメリカ合衆国）
科目名	アメリカの大学生活とビジネス・海外研修
海外での学習期間	2016年8月28日～9月17日

## 1. 履修のきっかけや動機

院試や就活を控える学年なので、その前に自分の進路の方向性を決めるためにも違う世界を体験してみたかったため。

## 2. 名古屋と海外での学習で学んだこと

名古屋においては主にアメリカやノースカロライナについての基礎知識を学び、アメリカにおいては英語でのプレゼンテーションの仕方、アメリカ・日本の2つの視点から見たビジネス等について学んだ。

## 3. 海外研修中での生活で学んだこと

アメリカの学生たちは日本人学生たちよりも勉強に対する意識が高い。これは制度の違いからくるものなのかもしれないが、結果としてそれぞれが自分から勉強しようとしている姿に感心した。

## 4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

夜間などの一人歩き等は確かに危険かもしれないが、アメリカの大学の方が大学警察等の危機管理設備が整っているので、そこまで用心しすぎる必要はないと感じた。

## 5. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ビザ、海外旅行保険	?円		振込
授業料・滞在費	30万円		海外送金/web支払（米ドル）
食費	3万円		現金
交通費	?円		
その他（小遣い、通信費など）	5万円		現金、カード
計		約60万円	

※現地通貨はいくら持参しましたか？ 500ドル

## 自由記述欄

・アメリカがカード社会という話はあらかじめ聞いていたが、想像以上にカード社会だった。僕が見たアメリカ人は100円の買い物ですらカードを使い、彼らの手から現金を見る機会は一度もなかった。

・英語はそれなりに通じるし、相手もわかってくれるのでなんとかなるが、ランチやカフェにおける注文は何を言うてかわからないことや聞き取ってくれないことが多く苦労した。

# 全学教養科目特別講義（海外研修）のふり返し報告書

記入 | 2016年 9月

所属 & 学年 | 経済学部 1年生

留学先（国名）	ノースカロライナ州立大学（アメリカ合衆国）
科目名	アメリカの大学生活とビジネス・海外研修
海外での学習期間	2016年8月28日～9月17日

## 1. 履修のきっかけや動機

高校時代からずっと海外留学をしたいと思っていたことがきっかけ。具体的には、海外で英語の能力を向上させること、コミュニケーション能力を上げること、そして日本とは全く違う文化を持つ人や環境に触れることを通じて自分の見方を広げたいと思って留学をすることにした。

## 2. 名古屋と海外での学習で学んだこと

名古屋においては、事前授業を通じて留学に向けての準備、アメリカの文化について学ぶことが出来た、3週間という短い期間の中で英語力を伸ばすには行く前にスピーキング練習や会話表現を覚えていかなければならないと考え、7月くらいから話し方についてオンライン英会話をほぼ毎日やり、基礎を学んだ。現地においては、ESLの授業の中で英語を使った効果的なプレゼン方法について深く学ぶことが出来た。又、ビジネスについても日米間の違いをトピックとした授業が行われたため、なぜ違いが生まれるのかを確認することが出来た。

## 3. 海外研修中での生活で学んだこと

まず、積極的な態度をとると、うまく物事が進むということ。恥をかくても積極的に色々なことに挑戦し、失敗しても修正して次に望むという態度を持ち続けて生活でき、人間的に本当に大きく成長できた。次に、語学を勉強する楽しさを学べた。日本で割とまめに自分の言いたいことを表現する方法やリスニング練習はしていたのでほとんど会話に困ることはなかった。英語で話す楽しさを学べたし、文化の違う人と一緒に遊んだり話したりする新鮮さを強く感じた。最後に、もっと英語を勉強すべきという事実も学んだ。非ネイティブであるのに英語を当たり前話している人が多くいて、自分ももっと勉強して、そのレベルに到達したいと切実に感じた。

## 4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

渡航前は、振り返り報告書を参考に、しおりの持ち物リストに載ってなくても便利そうなものをたくさん持って行った。あと現地での危機管理としては、ウエストポーチに貴重品を入れ、常に身から離さないようにしていた。治安に関して不安を感じたことはワシントン DC の旅行とノースカロライナでの生活を通してほとんどなかった。しかし、用心はすべきだと思う。

5. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ビザ、海外旅行保険	16万円		振込
授業料	31万円		海外送金/web支払（米ドル）
滞在費（寮費など）	-	授業料に含まれる	
食費	7万円		現金2万円、カード 5万円
交通費	2000円		
その他（小遣い、通信費など）	4万円		現金1万円、カード3万円
<b>計</b>	<b>約60万円</b>		

※現地通貨はいくら持参しましたか？ 8万円

自由記述欄

↓↓↓

日本文化庁や最初に行われる現地の日本語学生との交流を通じてたくさんの人と会う機会があり、そこでたくさんの人と友達になり、連絡先（Facebook or LINE）を交換したことが非常に良かったので、その交流は特に大事にするべきだと思う。

基本的に午後はフリーの時間だったのでほぼ毎日現地の学生とご飯を食べに行け、本当にいい経験になった。ワシントン DC の旅行についてはほぼノープランで向かってしまったので、ガイドブックを買うなりして準備をしておくとうよかったかもしれない。現地にはいろいろなおいしいものがあるので、現地の人に色々な場所に連れて行ってもらうのが一番だと思う。

個人的には、グループワークは大変な作業だと感じたが、グループワークのアンケートをするのは会話の練習にもなり、本当に楽しかった。趣味のある人はそれを生かして現地の人たちと交流できると幅が広がるのでよいのではないかなと思う。

ノースカロライナに行ってからもちろん英語は学ぶが、学べることは限られるのでしっかりとある程度話せるように日本で練習しておいて、学んだことをアメリカで実践するというスタンスのほうが断然効果は大きいと思う。

自分自身、この留学に参加したことで、もっと流ちょうに英語の読み書き、そして発音をしっかりとできるようになりたいと強く感じるようになった。この短期留学を通じ、自分自身、コミュニケーション能力、チャレンジ精神、語学能力、そして異文化理解能力を大きく向上させることが出来たので、留学に行こうか迷っている人には、ぜひ、行ってもらいたいと思う。

# 全学教養科目特別講義（海外研修）のふり返し報告書

記入 | 2016年 9月

所属 & 学年 | 工学部 2年生

留学先（国名）	ノースカロライナ州立大学（アメリカ合衆国）
科目名	アメリカの大学生活とビジネス・海外研修
海外での学習期間	2016年8月28日～9月17日

## 1. 履修のきっかけや動機

高校時代から短期で留学をしてみたいと思っており、今回のプログラムの行き先が最も行きたかったアメリカであり、期間も手頃だったため。また、英会話に苦手意識があったため、払拭したいと思ったため。

## 2. 名古屋と海外での学習で学んだこと

英語での調査活動の方法や、プレゼンテーションの仕方について学びました。言語が違うエリアで比較調査をするのは、とても難しいことが分かりました。（言葉が違うため微妙なニュアンスが伝わっているかが分からない、バックグラウンドが全く異なるため、同じ物言いをしても違う意味に取られる可能性がある）  
また、日本とアメリカのビジネスシーンでの違いについて、日本人とアメリカ人両方からお話を聞きました。海外で働いたことのある日本人のお話を聞く機会は何度かありましたが、日本で働いたことのある外国人のお話を聞く機会は今までなかったので、とても興味深かったです。

## 3. 海外研修中での生活で学んだこと

英語でのコミュニケーションに不安はあったのですが、意外と大丈夫でした。きちんとした文章になっていなくても、なんなら単語でしか返答ができなくても、相手も理解しようとしてくれるので、伝わることが分かりました。もちろんある程度聞いて話せる状態で行った方が、色々な人と色々な話をできるので楽しいとは思いますが、英会話の経験がない人・英語がとても苦手な人でもなんとかなると思います。  
有名な漫画やアニメを知っていると、日本に興味があるアメリカ人と話すときに共通の話題にできるので、良いなと思いました。（日本に興味があるアメリカ人は漫画やアニメを知っている人が多かったのです。）

## 4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

自分は食物アレルギー（卵など）があるので少し不安に思っていたのですが、アメリカは日本よりアレルギー表示が進んでいるのか、大体のメニューにアレルギー物質の表記があったので安心しました。安全カルテで服用可能な薬などをまとめて管理することが出来たのはよかったなと思います。  
一応防犯ブザーは買っていきましたが、使うこともなく帰国できたので良かったと思います。なるべく避けたほうが良いとは思いますが、大学内なら女子でも1人行動しても大丈夫かなと思います。

5. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ビザ、海外旅行保険	16万円		振込
授業料	30万円		海外送金/web支払（米ドル）
滞在費（寮費など）	-	授業料に含まれる	
食費	3万円		
交通費	0円		
その他（小遣い、通信費など）	4万円		
<b>計</b>			<b>約 53万円</b>

※現地通貨はいくら持参しましたか？ 4万円分

自由記述欄

↓↓↓

お金と時間的に行けるなら行って損はないと思います！とても楽しく有意義な3週間でした。

# 全学教養科目特別講義（海外研修）のふり返し報告書

記入 | 2016年 9月  
所属 & 学年 | 医学部 2年生

留学先（国名）	ノースカロライナ州立大学（アメリカ合衆国）
科目名	アメリカの大学生活とビジネス・海外研修
海外での学習期間	2016年8月28日～9月17日

## 1. 履修のきっかけや動機

中学のころから海外に興味があり、現地の中に溶け込んで会話や現地の人たちと交流してみたかった。また、文化の違いについても話を聞くだけでなく実際に体験して知りたかった。この研修を選んだ理由については、研修期間がちょうどよかったこと、航空券の手配などをお願いできたこと、興味のある国・プログラム内容であったこと、友達から勧められたことの4点である。海外に行くのが初めてだったため手続きの手助けをしてくれるこの研修はとてもありがたかった。また、当日までに授業があったためある程度知識を入れたうえで渡航できるという点もよかったと思う。

## 2. 名古屋と海外での学習で学んだこと

名古屋の授業で学んだことは世界で戦うために必要な能力、ノースカロライナで有名なもの、そしてアメリカと日本の文化の違いである。アメリカでは日本と異なって主体的・積極的・直接的な表現や行動をすることを知った。この授業のおかげで留学中いろんなことに挑戦しようと感じたり、わからなくても自分の知っている言葉で伝えようという気持ちをもったりして過ごせたと思う。もちろん名古屋で学んだことが留学中の授業で活かした場面もあった。留学中、ESLのクラスではアメリカの文化はもちろん上手なプレゼンテーションのやり方を学ぶことができた。ノンバーバルスキルはアメリカではかなり重要視されているようであり、現地では言葉だけでなく身体を使った感情の表現の仕方学ぶことができた。先生はとても優しくわからないところは何でも答えてくださり、また空いている時間は積極的に話しかけに来てくださった。ESLのクラスは先生も比較的ゆっくりと話してくださるので聞き取りやすかった。他にも外部から先生をお呼びして講義していただく授業もあった。ビジネスの授業については3人の先生に来ていただき、アメリカの企業、日本とアメリカのビジネス、ノースカロライナの産業について知ることができた。もちろんESLに比べてスピードは速めであったが、スライドも参考にしつつ半分は理解できる程度であった。

## 3. 海外研修中での生活で学んだこと

自分の意見をはっきりと述べる大切さを学んだ。これは現地の友達といるときや何かを買い物するときなど様々な場面で言えることである。意見をはっきり言わなくて言っていることがあまりよくわからないと言われる場面が多かった。Yes/Noをはっきりと伝えることを心がけるといい。私は自宅生なので、家族の大切さや自分の力で生活していくことの大変さも同時に知ることができたと思っている。

#### 4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

貴重品から目を離さないこと、現金は分けることを重視した。貴重品は先生から言われたように一つの袋にまとめて入れて置き、手持ちカバンに入れた。現金は手持ちカバン、小さいカバン、スーツケースの3つに分けて入れておいた。他にもスーツケースの鍵や部屋の鍵はとられないようにファスナーつきのポケットに入れておいたり、かばんに括り付けておいたりした。持っていったのはメッセンジャーバックだったのでかばんは前に持ってきてワシントンではカバンのふたを少し抑え気味にして持っていた。大学内は比較的安全でそこまで気にする必要はなかったように思われるが、ワシントンに行ったときは人が大勢いたため大学内よりも安全に気がついた。夜は結構暗くなるので一人行動は避けて、早めに寮に帰宅することを心がけた。大学内にはブルーライトという警報機のようなものが多く設置されていたので、その点では安心感が持てた。

#### 5. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ビザ、海外旅行保険	188,000 円		振込
授業料	320,000 円		海外送金/web 支払 (米ドル)
滞在費 (寮費など)	円	授業料に含まれる	
食費	34,000 円	ほぼクレジット	現金 円、カード 円
交通費	500 円		
その他 (小遣い、通信費など)	31,000 円	ほぼクレジット	現金円、カード 円
計		約 58 万円	

※現地通貨はいくら持参しましたか？ \$180

#### 自由記述欄

↓↓↓

大学内は自然が豊かで広大な敷地でした。気候は日本から湿気をとった感じです。基本は半そでで過ごしましたが、後半は肌寒くなってきたので上に羽織る物があるといいと思います。メインキャンパスに行くにはスクールバスを使っていくほどです。食事は朝はシリアルを食べ、昼は近くの食堂で食べ、夜はキャンパス付近のレストランで食べるか、大学内で買って食べることが多かったです。わたしはほとんどクレジットカードで支払いをしました。食堂でもクレジット払いができるのにとっても驚きました。ファストフードが多かったですが、インドカレーやメキシコ料理も食べることができました。キャンパスから出た方がいろんな食事を食べられます。

寮は一人ずつ個室がありプライベートの時間も楽しめました。調理器具は GTI から借りたり、Grocery shopping の時に購入したりしました。部屋の空調が低かったので最初の方の夜はブランケット 1 枚で寝るのは寒かったです。洗濯機や乾燥機は共同で使用しました。

フリータイムの時間はグループワークをしたり、現地のこと遊んだりしました。現地学生はみんな優しく、ご飯に誘ってくれたり遊びに誘ってくれたりしました。実際、5~6 回ほどご飯に連れて行ってもらいました。他にも BBQ・ビーチバレー・Gym で運動もしました。知り合いに



なれたのは最初の Meet Up・日本語クラブ・アニメクラブなどに参加できたからだと思っています。日本に興味のある学生さんばかりなので積極的に話すことができました。

ワシントンに行ったときは班の子たちと楽しく回ることができました。この時間を過ごしたことで、次の週からの ESL のクラスの雰囲気が打ち解けてきたように感じました。ワシントンモニュメント・スミソニアン博物館・リンカーン記念館・ホワイトハウスなどの有名な建物が見えました。スミソニアン博物館では荷物検査が必要なところもあり、驚きでした。

3 週間あるうちの 1 週目はよくわからずに過ごし 2 週目以降は自分から行動できたかと思います。ただ 2 週目はスケジュールが詰まっていたので思うように遊べず、3 週目も最終プレゼンに向けての練習が多くなりました。

留学を通してアメリカについて知っただけではなく、日本の良さも再認識することができたので行ってよかったと心から思います。この研修に関わってくださったすべての方に感謝いたします。本当に貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。



寮の中の自分の部屋  
ベッド、机、クローゼットがあった

寮の外観  
目の前にはビーチバレーのコートがあった



ある日の昼食  
日本よりも少しだけ量が多く感じた



# 全学教養科目特別講義（海外研修）のふり返し報告書

記入 | 2016年 9月

所属 & 学年 | 医学部 1年

留学先（国名）	ノースカロライナ州立大学（アメリカ合衆国）
科目名	アメリカの大学生活とビジネス・海外研修
海外での学習期間	2016年8月28日～9月17日

## 1. 履修のきっかけや動機

アメリカの大学生活を体験できる機会はめったにないので、参加してみようと思った。また過去に留学したことがあり、その時の経験が非常に有意義だったので、今回も素晴らしい体験をすることができると思い、参加した。

## 2. 名古屋と海外での学習で学んだこと

名古屋では、アメリカの文化や歴史、政治などについて学んだ。アメリカでは主にプレゼンテーションの方法を学んだ。またアメリカのビジネスや文化、政治について詳しく学んだ。

## 3. 海外研修中での生活で学んだこと

アメリカの人たちは自分の意見を遠回しに言うことなく、しっかり述べるので、自分の意見をしっかり述べるのが大切だとわかった。また、大学に関する考え方など様々な価値観の違いを発見できた。

## 4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

財布やパスポートのスリなどに気をつけた。また夜間に1人で歩かず必ず数人の友達と歩く、防犯ブザーやライトを身につけるようにした。また、大学内のエマージェンシーボタンの位置を確認した。

## 5. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃 & ビザ、海外旅行保険			振込
授業料			海外送金/Web 支払（米ドル）

※現地通貨はいくら持参しましたか？ 15万円程

(ただしワシントン DC のホテルでのチップとして使った数枚の1ドル札以外は全く使わず、他はすべてクレジットカード払いだったので大量に余った。)